

神戸の都心の『未来の姿』(将来ビジョン) 基本的な考え方

平成27年3月 神戸市

1. 将来ビジョン策定の背景と目的

阪神淡路大震災から 20 年が経過し、復興を進めてきた神戸は新たなステージを迎えており、これからは神戸の強み・神戸らしさを前面に押し出したまちづくりを推進していく。

また、20 年を契機に「BE KOBE～神戸は人の中にある～」を掲げ、“人が中心の神戸”という大きな方向性をもって新しいステージへの歩みを進めている。

神戸のリーディングエリアである都心において、神戸のもつ多様なポテンシャルを発揮し、世界に誇れる夢のあるまちを創造していくため、ワクワク感と心地良さを兼ね備えた魅力あるまち、世界に貢献できるまちとなるよう、目指すべき都心の将来像を示し、その実現に向けて、戦略を持って各種施策・取組を進めていく。

2. 将来ビジョン策定の進め方

まちづくり協議会や学識経験者などからなる神戸の都心の『未来の姿』検討委員会を設け、神戸の都心を魅力あるまちにするための議論を重ねてきた。

また、神戸の都心が目指すべき将来像を共有するために、神戸が大好きな人、神戸に誇りを持つ人の知恵を集めた。具体的には、たくさんの人が集まって知恵を出し合う場を「神戸の未来のまちづくり 300 人会議」、「市長との対話フォーラム」、「都心の未来を考えるシンポジウム」という形で設け、さらに WEB を活用して、都心の「未来の姿」に関する意見募集も行った。

3. 将来ビジョンの基本的な考え方

3.1 目指す都心の将来像の3つの柱

□心地良いデザイン

海と山を感じることができる独自の景観、多種多様な交通体系、活動しやすい空間が形成されている。また、港町として国際性豊かな人々が住み、働き、訪れる個性あふれる場所がモザイク状に広がっている。

それぞれのエリアで、魅力を伸ばし、わかりやすい「交通」と「情報」が織り込まれ、誰もが、心地良く、交流し、留まり、楽しむことができる。

□出会い、イノベーション、そして文化

神戸の魅力の1つである「進取の気性」が発揮され、海外からの多様な文化や新しい気風を取り入れながら、個性豊かな人やまちが育っている。

多様な人々の交流と融合により、新産業の創出や技術などの革新が生まれ、持続的に発展しながら、神戸独自の開かれた文化が醸成される。

□しなやかで強いインフラ

阪神淡路大震災を経験した神戸市として、復興の過程で培われてきた「防災力」、環境負荷を低減し、非常時にも機能を保持する「エネルギーシステム」、魅力ある地域をつなぎ、誰もが動きやすい「人中心の交通体系」を備えている。

3.2 都心に備える8つの軸

- ①景観：そこかしこで神戸を感じられる景観デザインのまちへ
- ②にぎわい：次々と新しい人が訪れ、新しい出会いが生まれるまちへ
- ③生活・居住：人とつながり、まちに溶けこみ、自らのライフスタイルが送れるまちへ
- ④産業：人・アイデアが反応・融合し、新たな価値が創造されるまちへ
- ⑤観光・文化：五感に響く心地良さと、世界に認められるおもてなしのあるまちへ
- ⑥防災：不測の災害に対しても、しなやかで強いまちへ
- ⑦環境・エネルギー：環境に優しく、エネルギーをスマートに活用するまちへ
- ⑧交通：わかりやすく使いやすい交通が整った、歩く人が中心のまちへ

3.3 神戸の魅力のプロモーション

神戸の魅力をさらに知ってもらうために、市内外に向けて広く戦略的にプロモーションを実施していくことが重要である。「何か神戸が面白そうだ」と思ってもらえるよう様々な媒体を活用した効果的な情報発信に継続的に取り組んでいく。